

桐生市の教育

⑧ 触れる・使う桐生市の文化財

文化財というあまりなじみのないものと思われがちですが、日々の生活のなかで何気なく接していることに気が付かないものです。

文化財が数多くある桐生市では、全国に先駆けて「文化財を使いながら残す」活動を展開し、子どもの頃から文化財に親しむ機会を設けています。今回は、その活用事例を紹介します。

問い合わせは、文化財保護課（☎内線622）へ。

文化財の市有施設

市有施設の桐生明治館、有鄰館、絹拵記念館は、建物そのものが国や市の重要文化財に指定されています。

桐生明治館では毎年「相生幼稚園児作品展」を、有鄰館では市内小・中学校の作品などでの展示を、絹拵記念館では小・中学校を対象にした「伝統ある街・桐生」絵画コンクール作品展を開催しています。また、各施設とも多くの児童・生徒が社会科見学で訪れています。

ものに触れる・学ぶ

昔から使われていた道具などの民俗文化財を授業に活用している小学校もあり、当時の農具で実際の農作業を体験しています。

また、中学校や高校の就業体験で、実際に遺跡から出土した土器や石器などの遺物の整理作業をすることで資料の大切さを学ぶ生徒もいます。

行事を見る・参加する



文化財防火訓練の様子

市内には織物産業を中心とした遺産が数多く残り、近代化遺産や日本遺産などが様々なメディアで紹介されています。

子どもが本物を見て、知り、感じるができるように、

公開事業やウォークラリーなどの行事を開催しています。

毎年1月の「文化財防火デー」防火訓練には、会場周辺の幼稚園・保育園などの園児が見学を訪れ、消防車からの放水時には歓声が上がります。

文化財のある風景

市内には、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）をはじめ、ノコギリ屋根工場や洋風建築、神社仏閣、近代和風住宅などが立ち並び、まちの風景のなかに当たります。のように文化財があります。300年以上続く桐生祇園祭をはじめとした伝統的な行事も文化財と言えます。

これからも子どもの頃から市民が触れる・使う機会を創出しながら、文化財の保護に努めます。



重伝建地区の様子

今月の表紙

10月5日（金）に黒保根小学校と東京都港区の西町インターナショナルスクールとの交流事業で稲刈りが行われました。5月の交流事業で一緒に植えた苗は、大きく実り、児童たちは、指導員の指導を受けながら鎌を手にとり真剣に取り組んでいました。

人口と世帯

（9月30日現在）

人口	112,419人（-123人）
男	54,158人（-73人）
女	58,261人（-50人）
世帯	49,956世帯（-17世帯）

（ ）内は前月比

今月の納税

国民健康保険税…第5期

11月30日（金）が納期限です

コンビニエンスストアや銀行などのペイジー対応ATMからも納付可能です。口座振替を利用している人は、預貯金残高のご確認をお願いします。

広告